

静岡県日中友好協議会ニュース

No. 115

2019. 6



江南地方の水郷古墳

～呉越の境界にたたずむ～ 西 塘

複雑に入り組んだ水路、狭い路地、無数の古い建物群、水路に架かる石橋、中国江南の水郷古鎮、浙江省嘉興市嘉善県に水郷古鎮「西塘」があります。春秋戦国時代における一帯は呉と越が交差する場所であったため、「呉根越角」や「越角人家」と呼ばれていました。

この西塘は唐・宋時代に村落が形成され、元・明時代に窯業や穀物取引、製陶業を始めとする産業が盛んになり、大いに繁栄し発展しました。元代には水郷の原形ができ、800年近い歴史を持っています。また、弄堂（住宅の合間を縫う路地）の多さと、狭さや長さ1mにも渡る「廊棚」（屋根のついた長廊）が見どころです。2001年には西塘の街並みが、ユネスコ世界遺産暫定リストに掲載され、2003年には中国歴史文化名鎮の第一次に登録されました。また映画「ミッション：インポッシブルⅢ」のロケ地になり、一躍海外に知られる有名な水郷古鎮となりました。

特集 1 ~ 2019 年度定期総会開催 ~

協議会設立、「不惑」の40年を迎えて

去る5月17日(金)、ホテルセンチュリー静岡で、本協議会の「2019年度の定期総会」が開催されました。昨年度は浙江省の袁家軍省長が来静され、これに併せてビジネスフォーラムが行われたこと等の事業報告が行われ、新年度は3年後の静岡県浙江省友好提携40周年（2022年）に向けた交流を推進していく事業計画が承認され、新たなスタートを切りました。

◎川勝会長挨拶（要旨）

静岡県の地域外交の基盤とも言える中国浙江省との交流が始まってから、37年が経過しました。

昨年は、浙江省の袁家軍省長が6年ぶりに来静され、県内企業、介護施設等を視察しました。併せて、開催されたビジネスフォーラムに同席されました。袁家軍省長との会談では、更なる交流の深化を目指すと共に、一層強固な関係を構築していくことを相互に確認しました。



【挨拶する川勝平太会長】

また、まもなく離任される程永華中国駐日本大使にご挨拶申し上げました。程永華大使が着任した当時は、日中関係が冷え込んだ時期でありましたが、そうした時期も本県が浙江省と交流を推進したことを改めて高く評価していただきました。

今年は、来月から北京国際園芸博覧会で静岡県の出展を行います。展示により一層の情報発信を行い、富士山などの世界的な地域資源を有する静岡県の知名度向上を図っていきます。それから、今年も静岡県・浙江省友好交流卓球大会を開催し、子供たちを中心に浙江省で行います。中国は静岡県にとって最も大切な地域外交の相手で、友好的互恵互助の精神を持って接していきたいと思います。

1979年設立の本協議会は40周年を迎え、また両省県の友好提携40周年に向ける年であります。重要な節目であると捉えており、人生で例えると『不惑』の年をまもなく迎えるため、その道を固めていきたいと思います。人と人との信頼関係をしっかりと築いていくことが、平和への道であり、これを続けて行きたいと思います。



【2019年度定期総会】

特集 2

祝 富士山静岡空港 開港 10周年

6月4日、富士山静岡空港は開港10周年を迎えました。総事業費は約1,900億円、その内、空港本体の事業費は約490億円。1987年、島田市、牧之原市（旧榛原郡榛原町）に空港建設することが決定され、1998年に着工、2009年6月4日開港しました。

【中国路線の足跡】現在、開港時より定期便を就航している中国東方航空の静岡－上海線が10周年を迎え、静岡－杭州線、静岡－寧波線、静岡－煙台線が就航しています。（路線開設後取消又は運休の定期就航路線：鄭州、合肥、長沙、石家莊、西安、鹽城、海口、武漢、南寧、天津、大連、濟南、溫州、南京、瀋陽）

2009年：中国東方航空、上海浦東経由武漢線（週2便）、開港時より就航開始。

2012年：中国東方航空、上海浦東経由武漢線（週4便）に増便。

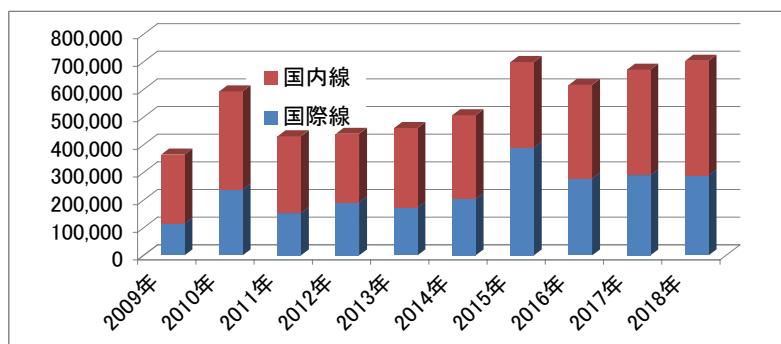
2014年：天津航空、静岡－天津にチャーター便を運航。北京首都航空、静岡－杭州にチャーター便を運航。

2015年：天津航空、チャーター便を静岡－天津線を定期便（週5便運航）として就航。中国東方航空、静岡－寧波にチャーター便（週2便）を運航。中国東方航空、チャーター便/静岡－寧波線を定期便（週2便）として就航。静岡－上海・武漢線を週5便から1日1便へ増便。中国南方航空、静岡－武漢線（週3便）及び静岡－南寧線（週2便）就航。天津航空、静岡－西安線を週2便で新規就航。静岡－天津線を週5便から1日1便へ増便。北京首都航空、静岡－石家莊に連続チャーター便（週2便）を運航。北京首都航空、静岡－鹽城に連続チャーター便（週2便）を運航。中国東方航空、静岡－寧波線を週2便から週4便へ増便。中国南方航空、静岡－鄭州線で新規就航（週2便）。中国東方航空、静岡－溫州線で新規就航（週2便）。北京首都航空、チャーター便/静岡－杭州線を定期便（週2便）として就航。中国南方航空、静岡－長沙線で新規就航（週2便）。中国東方航空、静岡－南京線で新規就航（週2便）。中国東方航空、静岡－上海線を1日1便から週12便に増便。北京首都航空、チャーター便/静岡－鹽城線を定期便（週2便）として就航。北京首都航空、チャーター便/静岡－石家莊線を定期便（週2便）として就航。雲南祥鵬航空、静岡－長沙に連続チャーター便（週1便）を運航。中国東方航空、静岡－合肥線で新規就航（週2便）。

2018年：中国聯合航空、静岡－煙台線を週3便で就航。

静岡空港乗降客数推移（人）

	国際線	国内線	合計
2009年	115,293	249,112	364,405
2010年	238,234	354,999	593,233
2011年	152,589	277,936	430,525
2012年	191,739	248,072	439,811
2013年	173,461	287,196	460,657
2014年	203,933	303,017	506,950
2015年	390,740	308,536	699,276
2016年	278,030	338,354	616,384
2017年	289,613	381,969	671,582
2018年	289,253	414,439	703,692



交流往来点苗

浙江省人民对外友好协会一行来静

浙江省人民对外友好协会の陳艷勤専職副会長を団長とする一行4名が、5月中旬に静岡県を訪問しました。一行は本県滞在中、静岡県等関係団体を表敬訪問し、陳艷勤専職副会長の新任の挨拶と本年の両県省友好交流事業やこれからの交流促進について意見交換を行いました。本協議会とは、5月20日に栗原理事長が一行と面会し、親しく懇談しました。



右から2人目、陳副会長

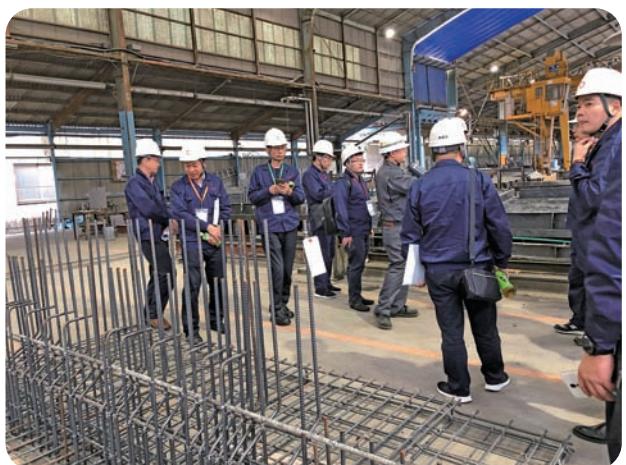


浙江省建設業交流団一行来静

6月11日と12日の2日間、浙江省企業聯合会傘下の建設業企業の責任者が日本の同業者協会及び企業を訪問し、経営管理等についての交流と関連現場等を見学するために、浙江亜厦装饰股份有限公司の丁欣欣董事長を団長に一行22名が来静しました。一行は本県滞在中、静岡県建設業協会との意見交換、木内建設の建設現場及びPC工場等を視察しました。

静岡県「2019北京国際園芸博覧会」に出展

静岡県は川勝平太県知事をはじめとする一行が6月8日「2019北京国際園芸博覧会」(会期:2019年4月29日~10月7日)を訪れ、日本展示館内で開催の「静岡ウィーク」で日本文化、静岡県の魅力を中国へ伝えました。日本展示館内にはガーベラで作られた富士山やヤマハのピアノが来場者を出迎えました。この「静岡ウィーク」は6月21日まで行われました。



一九三七年竣工の『錢塘江大橋』

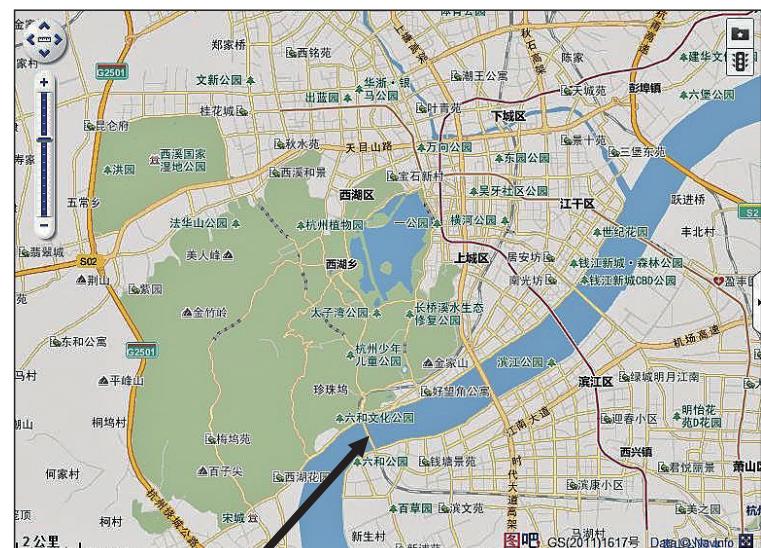


錢塘江を南北にまたぐこの橋は上海－杭州－寧波をつなぐ交通の要でもあります。錢塘江大橋は橋梁建築家・茅以昇が設計建築を取り仕切った、中国が始めて独自に設計、建築した近代的大橋であり、初めての鉄道、公道両用の二層橋梁（下層線路橋は全長1322M、上層公道橋は全長1453M）であり、1934年8月8日に建設が始まり、1937年9月26日に完成しました。

戦争中の1937年、44年、45年に部橋脚が爆撃・爆破などの被害を受け、長年にわたり使用できなくなったりすることがありますが、1964年、74年、93年、2000年に大規模な補修工事が行われ、現在作られる多くの橋と異なり、多くの鋼材や部品が交換可能な構造であることから、現在も元の橋脚が使われています。

当初は50年間の寿命を想定していた錢塘江大橋は、2007年に橋の総合評価を行われ、極めて堅牢に作られていることが分かり、また列車通過時の橋の変形がわずかに増大していることが分かったため、貨物列車の通過速度を時速60キロに制限しました。

専門家によると、今後も橋を長く利用するための方策で、今後10年は問題なく、大切に使い続ければ、“100歳の誕生日”を現役で迎えることができるとみています。



錢塘江大橋

浙江人物点描

～阿里巴巴（アリババ）創業者～

馬雲



【馬雲氏／ジャック・マー】



【杭州市余杭区にあるアリババ集団本社】

中国本土の起業家で初めて『フォーブス』に掲載された人物である馬雲氏（英語名: Jack Ma ジャック・マー、浙江省杭州市出身）は阿里巴巴集団（阿里巴巴集團）の創業者であり、現在、董事長主席（会長）、ソフトバンクグループの取締役も務めています。

中国を代表するユニコーン企業・アリババを創る

1964年に浙江省杭州市で生まれた馬雲氏は2度大学試験に落ちていますが、英語に関しては成績優秀で、卒業後、1988年に杭州電子工業学院で英語と国際貿易の講師になります。更に外国人観光客に無料の旅行ガイドをして英会話を学んだ、という話は有名であり、転機が訪れたのは、1995年に英語の通訳としてアメリカを訪問した際に、インターネットに出会い、その可能性、将来性に気づいた馬雲氏は帰国後、企業情報サイト「中国イエローページ（中国黄頁）」を立ち上げ、その後、現在のビジネスモデルの基礎となる1999年に企業間電子商取引（B2B）のオンライン・マーケットの阿里巴巴集団（阿里巴巴集團）を創立しました。

「独身の日」（11月11日）の取引額2,135億元を記録

2003年に、Eコマースのショッピングサイトである「タオバオ（淘宝網）」を立ち上げます。「タオバオ」はその後、アジア最大のショッピングサイトへと成長し、2004年に、オンライン決済のプラットフォームである「アリペイ」をスタートさせています。消費者向けの電子商取引サービスである「タオバオ」では、中小企業の圧倒的な支持を獲得し、「タオバオ」から派生したモールサイト・Tモール（天猫）は消費者向け電子商取引サービスの市場をけん引し、インターネット上の決済と金融サービスを融合事業化したのがキャッシュレス決済「支付宝（アリペイ）」です。最近では、出前サービスやスーパー・マーケット経営（O2O）にも乗り出し、オンラインビジネスで培った技術とノウハウを実店舗に展開しています。中国の「独身の日」（11月11日）という言葉を日本でも耳にすることが増えてきましたが、昨年の1日の取引額は過去最高となる2,135億元（約3兆4,160億円）を記録し、阿里巴巴集団の2019年3月期決算の売上高は前期比50.5%増の3,768億元（約5兆6,520億円）に上り、破竹の勢いで成長を遂げています。

生活革命!!

寧波人の観光スタイル

寧波大学外国語学院外籍教師
(静岡県日中友好協議会 交流推進員)

横井香織



今年度は、寧波の人々の生活の一端をいくつかのトピックスに分けてご紹介していきます。今回は、寧波では休暇をどう過ごすか、つまり寧波人の観光スタイルについてです。

寧波の人々は、暑い夏も寒い冬の日も、休日になるとよく出かけます。週末や休日は、天気がよければ寧波一の繁華街である天一広場や、天一広場の西にある月湖に、多くの人が集まります。月湖は、緑あふれる広々とした公園で、周辺には史跡や記念碑、旧宅、博物館などが点在しています。人々はここを散策したり歌や踊りを楽しんだり、小さな遊覧船に乗ったりします。昼夕の食事どきには、近くのレストランは家族連れで満席です。

日本に比べて祝日の少ない中国では、まとまった休暇がとれるのは1年に2回だけです。それは10月1日から始まる国慶節休暇と、2月の春節（旧正月）で、どちらも1週間ほどの連休です。日ごろ、都市部に住み多忙な日々をおくる寧波人は、豊かな自然が大好きです。連休を利用して、雲南省や新疆ウイグル自治区、チベットなど、中国内陸部へ大自然を求めて出かけます。旅の準備には、スマホが欠かせません。「携程」「去哪儿」「飛猪」などのアプリを使えば、高速鉄道や飛行機、ホテル、レストランなどの予約ができます。ユーザーによるコメントや評価を参考にしながら、自分で旅をコーディネイトします。

海外旅行の場合は、オンライン旅行会社のツアーに参加します。欧米やアジア、もちろん日本へのツアーも出ています。日本では「爆買い」ばかりに注目が集まります。しかし実際は、日本各地の自然や文化、日本でしかできない体験、和食などを楽しみにしている人がたくさんいます。北海道でスキーを楽しみたい、奈良や京都で日本の歴史に触れたい、伊豆の温泉に行きたい、日本の田舎に行ってみたい、華道や茶道を体験したい、大相撲を見に行きたいなど、個人のニーズに合わせて、オーダーメイドの訪日旅行を扱う旅行会社も出てきました。富裕層の中には、健康診断ツアーや医療ツアなどの訪日旅行をオーダーする人もいるようです。

寧波からはこれまで、大阪と静岡に週2便ずつ、名古屋に3便、直行便が飛んでいました。今年4月末からは、ついに寧波・成田直行便が週4便、就航するようになりました。また、寧波駅前から上海浦東国際空港行きの直行バスも、運行しています。毎年、日本を旅行している寧波の友人は、便利になったと喜んでいます。今後、ますます寧波から日本を訪れる人が増えていくことでしょう。



【月湖の様子】



【去哪儿トップページ】

～蛇と人の恋物語～『白蛇伝』

『白蛇伝』は中国人なら誰でも知っている民間伝説です。『白蛇伝』は『牛郎織女』（織姫と彦星）、『孟姜女』、『梁山伯と祝英台』と共に、男女の愛をテーマにしたロマンチックな中国の四大民間伝説の一つとして知られています。日本では、『白蛇伝』は日本初のカラーアニメ映画として映画化され、日本人にもなじみ深いものになりました。

杭州西湖の断橋と『白蛇伝』

『白蛇伝』は「蛇が若い女性に化けて若い男性を襲い喰ってしまう」という民間伝説にさまざまなストーリーが加わり、蛇と人間の恋物語になったものです。



『白蛇伝』は美しい西湖に住む白い蛇が美しい娘に変身し、断橋の上で出会った眉目秀麗な書生と恋に落ちます。二人は長年の間幸せに暮らしますが、正体を見破った僧侶に書生は湖に封じられ引き裂かれてしまい、その娘は書生と最初に出会った橋の近くで姿を消します。それでも二人は苦難の末に西湖で再会を果たすという恋物語として伝承されてきました。

『白蛇伝』は主に中国の伝統戯曲「昆劇」としてよく上演され、また「京劇」、「越劇」、「川劇」でも演じられて、庶民の間でも広く語り継がれ、この西湖にかかる橋「断橋」は「会いたい人に会える伝説の橋」として知られています。